

# SSKO

社会福祉法人 はらからの家福祉会

# われら同胞

NO.49



☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p 総合施設長あいさつ
- 3 p 地域生活支援センター プラッツ
- 4 p グループホーム ピア国分寺
- 5 p さつき共同作業所
- 6 p ネットワーク推進部
- 7 p 社会福祉法人はらからの家福祉会組織図  
新職員紹介
- 8 p 賛助会コーナー

# 種々の変化と課題に向かう

はらからの家福祉会理事／総合施設長 伊澤雄一

去る5月22日、当会の監事による事業・財政内部監査により昨年度の法人事業の全体の振り返りを実施しました。また5月25日には本年度第一回理事会を開催し、昨年度のまとめ、ならびに今年度の展望を拓く観点からの審議検討を種々行しました。それらを経て今日あらたな気持ちで新年度を過ごしています。

昨年度は社会福祉法の改正に伴い、社会福祉法人の組織や事業運営に関する改革がありました。従前の組織・事業運営を大きく改め、ガバナンス強化をテーマに“種々の引き締め”を軸とする見直しが必要となり、不慣れな変化に戸惑いを強く感じた一年でした。

そして人事に関する動きも様々あり、あわただしい年ともなりました。長らくお努めいただいた須長靖夫氏に代わり藤田英親理事長が就任し、執行組織内の大きな環境変化がありました。また現場の運営体制も離職や異動等により、落ち着きなく過ごす日々を過ごしました。部署によっては体制の補強が至急に必要なる事態を迎えても、なかなか体制が整えられず、新たな人の雇用に至る状況を容易に作れませんでした。

しかし昨年度末に近づく中で、「素敵な出会いと良縁(?)」に恵まれ、素晴らしい人材の登場を見ました。

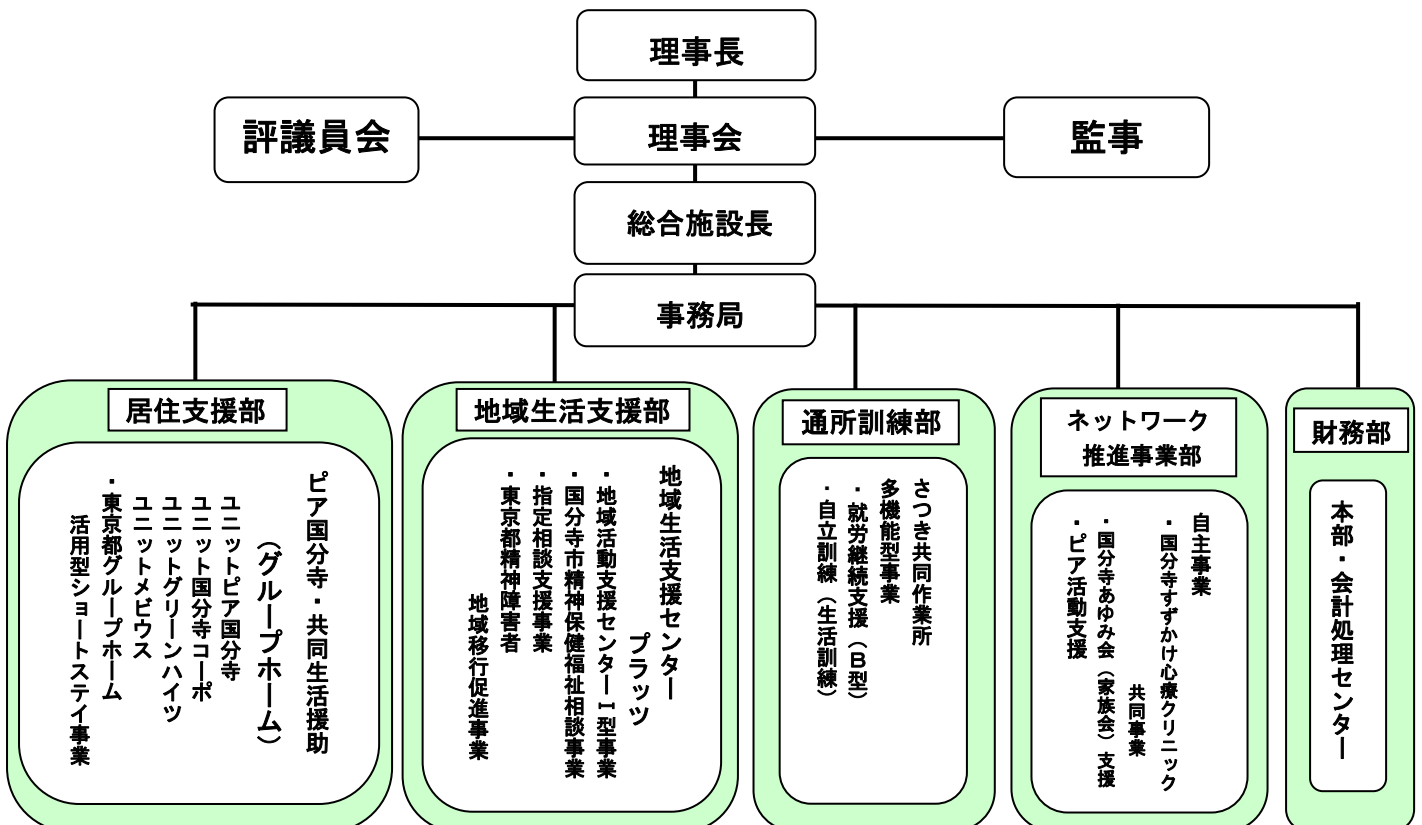
本紙で紹介の新職員を皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

さて本年度も課題山積、福祉環境面での改革は続行中で、国、自治体の施策も活発に動いています。

特に次年度（平成30年度）に予定されている各種関係法制の改正・施行、そして介護・福祉サービス・診療報酬のトリプル改定、さらに医療・福祉系計画の新时期スタートなど、まさに大きな節目を間近に控え、激動の様相を見せています。これらの動きはすべて、わが国の「超々高齢化」社会の到来に向けた準備のための変化ととらえることができるのですが、その変化、改革の激しさに翻弄されることなく、社会的使命を見失わずに進んでいきたいと切に思います。

わが法人のテーマとして、一昨年の記念事業（式典等）で掲げた『街での暮らしを創る』という深遠な追求課題を改めてかみしめ、ぶれない組織づくり、事業展開を目指していきたい。そんな思いが募る今日この頃です。

社会福祉法人はらからの家福祉会 組織図（平成29年度）



## 平成28年度地域生活支援センタープラッツ事業報告

年間利用者状況	① 相談支援延べ利用者数 9,060名 訪問 403名 ケースカンファレンス 140名 来所 1,011名 関係機関連絡 1,915名 同行 160名 電話 5,358名 メール 1名 その他 68名 ② 来所利用者数 3,966名（*平均来所者数 15.0 / 日） ③ プログラム 参加者数 974名 開催数 146回 ④ 宅配弁当手配 369名 ⑤ ボランティア（実人数9名）プログラム回数 71回 傾聴ボランティア 48回 ⑥ その他 外部会議 75回 出向・出講 213回 家族会支援等 2回 精神保健福祉ボラ講座 6回 地域イベント 2回
利用者の属性	1. 利用者総数 357名 地活登録利用メンバー 97名 男性 52名 女性 45名 新規登録 8名 更新 89名 国分寺市内 78名 市外 18名 平均年齢 51.2歳 2. 指定相談支援事業利用者 94名 3. 障害者地域移行促進事業 個別支援利用者 60名 協力病院 10ヶ所 退院者 18名 支援終了者 16名
職員体制	伊澤（管理者） 奥澤（所長） 藤井 尹 角谷 猪鼻 保坂（非常勤職員）
開館状況	○ 開館日数 264日

### 平成28年度振り返り

28年度は前年度に引き続き利用者さんが減った1年となりました。それだけ書いてしまうと良くないことのようにも思えますが決してそうではありません。皆さんがプラッツ以外に通う場所や安心して過ごせる場所を持つているということでもあります。皆さんの活躍をお祈りするとともに、つまずいてしまったり上手いかなかったりすることがあればいつでも遊びに来て頂ければと思います。旅立ちの場所であり帰る場所でもある、そんな場所であれたらと思います。

### 平成29年度活動展開にあたり

事業内容に変更はありませんが職員体制では異動や新規採用がありました。新体制となりご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが精一杯取り組んでいきたいと思っています。

29年度の大きな目標としては、昨年度から利用者さんとお話し合いを続けている「いごこちのよいプラッツをつくっていくために」（交流室で過ごすためのマナー）の改定があります。皆さんが気持ちよく、安心して利用できる交流室になるよう考えていければと思います。

「業務の効率化」も大事な要素となります。複数の事業を組み合わせているためどうしても混乱が生じやすい状況です。よりスムーズに各事業に向かっているよう調整が必要です。いいアイデアがあればぜひ教えて頂ければと思います。

# 平成28年度 ピア国分寺事業報告

## グループホーム・シヨートステイ

28年度から、4ユニットのうちピア国分寺ユニットの期限を3年から2年に変更し、3年目は退去ではなく別ユニットへの移動という選択もとれるようにしました。その中で退去後の生活を見据えた環境調整など『アセスメント重視の利用』についても進めていきます。その後、数名の利用者とは2年で退去やユニット移動の検討を始めています。ユニットピア国分寺での2年、部内他ユニット（アパートタイプ）での実践的な取り組みをする1年といった仕組みが確立できると、空室をつなげられることや、最初はアパートタイプでの生活に不安がある利用者のステップアップ式の利用が望めるのではないかと考えております。

課題として、内外の連携、情報発信については、内部の地域移行促進事業との連携や、病院との連携や情報共有に重きを置き、入居後も支援に滞りがないよう努めています。

各ユニットの入退去者は以下の通りです。ピア国分寺（定員7名）入居者3名、退去者1名。国分寺コーポ（定員7名）入居者0名、退去者1名。グリーンハイツ（定員6名）入居者1名、退去者3名。メビウス（定員6名）入居者4名、退去者5名。合計入居者8名、退去者10名。

ピア国分寺が東京都から受託している「グループホーム活用型シヨートステイ事業」については、26名（前年度18名）の方が延べ184日（前年度249日）利用されています。前年度に比べて利用者数が増加しているにもかかわらず利用日数が減少しているのは、登録はしていても主に体調不良が原因でなかなか次の利用に進まない方が多かったということがありました。



### 〈平成29年度抱負〉

現在ユニットごとに毎週開催しているお茶会や、全ユニット合同での行事、防災訓練や健康診断等のプログラムを設けていますが、社会生活環境や福祉サービスが変化していく中で、居住支援におけるプログラム提供についても見直していく必要があると考えています。プログラムを提供する意図や訓練効果、防災への意識、そして個別支援とのバランスをあらためて捉えなおし、居住支援全体が利用者にとってより有意義なものになるよう、枠組みや提供方法、また利用者への周知等について見直しをはかります。



# 平成28年度さつき共同作業所事業報告

## 就労継続支援B型／自立訓練（生活訓練）

◆「施設整備」増室（二〇五号室）を実施し事務室、相談室兼静養室を確保しましたが、事務室が一階と二階に分かれることで迅速な情報の共有という面では課題が残ります。

二〇五号室には震災時の安全を意識した備付けの書庫を設け、鍵管理のもと個人情報等の管理を行っています。また、隣室と容易に往来できるドアを設けたことで、避難ルートの確保はもとより、作業・訓練中の体調不良等緊急対応にも役立っています。

◆ボランティア講座での事業紹介や、市ボランティアセンターのホームページで求人掲載をして頂いたことで、新たに三人のボランティアの増員がかない各種作業等に協力して頂いています。常勤職員は、平成二十九年度からの増員は見込めるものの、平成二十八年度は厳しい状況が続きました。

◆職員の個別目標が定着したこと  
で各々が職務に責任を持ち、働きやすい職場を全員で目指す姿勢が継

続出来てきています。研修や勉強会等の振り返りを職員会議内で行い、情報共有やスキルアップに役立てています。

◆「就労継続B」室内作業工賃をアップしたことで作業参加者が増えました。自主製品制作の参加者も増え、商品の質の向上に取り組み、東京都福祉保健局主催の『福祉セレクトショップ KURUMIRU』での販売を開始するなど販路拡大に繋がっています。リタリコワークス府中の協力のもと『お仕事準備グループ SWPG』を月一回実施したことで就労の意識が高まり、四人が国分寺市就労支援センターを活用して就労に向けて取り組んでいます。

◆「生活訓練」利用期限や生活の安定向上により八人が他事業へ移行しました。生活訓練の利用希望者が見込めず、平成二十九年度は定員の確保が重ねてきました。このような中でも、必要な支援と判断し、地域移行

支援の一環として近隣の精神科病院に入院中の三人の方の受入れを実施しています。

プログラムは利用者主体で立案していることに加え、必要に応じて就労継続支援Bの利用者にも参加枠を広げているため各プログラムとも参加者は多い状況です。また、通所拒否の方を訪問支援に変えることで利用の継続を可能にしました。新規利用の二人を含め三人の訪問支援も実施しています。

### 平成29年度 事業計画

◆「運営」地域や行政からの支援により、自主製品の制作に加え商品開発、販路拡大なども急務になっていきます。訓練としての作業を重視し外注加工品の取入れなど、自主製品の制作や販売の中長期計画を立てます。

生活訓練の訪問支援について広く知っていただくための営業活動を行います。

◆「職員配置」配置基準は満たしていますが、トラックなど大型車の運転が出来る支援員が不足しているため求人継続します。

訪問支援に適う職員を育成し訪問支援の充実を図ります。

◆「研修」キャリアアップを取り入れた育成計画を策定します。

◆「就労継続B」ハンドメイド販売強化に努め工賃の安定支給を目指します。国分寺のイメージキャラクター「ホッチ」の商品化を行い売り込みを行います。

各所関係機関と連携を取りながら一般就労を目指す利用者に対して勉強会やプログラムを積極的に実施し年間就職者二名を目指します。

◆「生活訓練」通所支援では、個別のニーズを引き出しつつグループで行うプログラムに生かし、必要に応じて講師を招きながら、新しいプログラムの検討・開発も行っています。

訪問支援では、関係機関への情報発信を継続し、個別のニーズに沿って充実した社会生活の安定を支援していきます。

また、通所・訪問共に、生活の幅を広げることで、充実した日常生活を地域で継続しておくための支援を行います。

# 平成28年度 ネットワーク推進事業部事業報告

ネットワーク推進事業が始まり4年目も又、沢山の方々のお力を頂き、感謝しております。

本事業の目的は、地域での医療と保健・福祉の効果的な連携推進です。具体的には

- ①「地域社会でその人らしい生活を送る為の医療サービスを提供する」という理念をもつ国分寺すずかけ心療クリニックにおける業務
- ②地域連携の1つである「地域ネットワーク多摩」（立川・国立・府中・国分寺の福祉・保健・医療連携）への積極的参加
- ③地域の家族会である国分寺あゆみ会への協力と協働
- ④ピアとの協働 等です。

## 平成28年度のそれぞれの事業報告

①医療の現場において福祉的視点を持った多職種チームで、行政・医療・保健・福祉等の様々な力をできるだけ頂き、患者さんやご家族、関係者とともに、地域で生きる生活者として何が必要かを考え、デイケア・訪問看護・

外来相談等に当たるよう意識しています。

②「ちたま精神保健医療福祉フォーラム」では、精神の病を抱える以上に問題の深い孤立について考え、内谷正文氏による薬物依存症をテーマにした一人芝居を上演しました。又お互い顔の見える関係になるようにして、チームとなつて、患者さんの生活を支援するよう考えています。

③引き続きあゆみハウスにおける水曜家族相談会に、当会の各部門と国分寺すずかけ心療クリニックから、相談員として協力させて頂きました。そして会長交代という大きな転換期を迎えた国分寺あゆみ会で、新会長、新副会長をはじめ役員の方々と、多くの時間を過ごさせて頂きました。その中で、当事者を大事にしながらいっしょに支え合い、逞しく生きていく姿を目の当たりにするという、恵まれた時間を過ごしました。

また家族相談会をきっかけに、学芸大の福井先生の招きで、精神病床数が世界一である多摩地区のいくつかの病院と、標準版家族心理教育研修会 in 多摩（3月11日・12日）を開催することができました。

④国分寺すずかけ心療クリニックではピアスタッフと日常的に仕事をし、さつき共同作業所においてWRAP（元氣回復行動プラン）を一緒にやらせて頂きました。

## 平成29年度抱負

国分寺あゆみ会や国分寺すずかけ心療クリニックでは同じ釜の飯を今後も食う姿勢で、日常業務に丁寧に取り組んでいけたらと思います。今後ともご協力ご指導をよろしく願います。



## 新職員紹介

初めまして。今年度の4月より、地域生活支援センタープラッツの職員になりました小野寺倫子です。出身は宮城県で、何もない田舎です。早く育ち、大学進学と同時に東京に出てきました。

好きな事や趣味は、ありきたりではありますが、音楽鑑賞です。ライブハウスに行くことが、すごく好きです。休日は一人でも、友人とでも参戦しています。また、旅行に行くことも好きです。これからも、色々な場所に行きたいと考えてます。ですので、ぜひ皆さんが行ってよかったです場所のお話など、聞かせてください。

小さい頃から、人と話すことが好きな子どもでした。この先も、人と関わりあう喜びを感じながら、何事にも誠実に向き合っていきたいと考えています。

至らぬことも多く皆さんにご迷惑をお掛け致しますが、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

皆さん、初めまして。毛塚和英と申します。

13年間、精神科病院でソーシャルワーカーとして勤務していました。個人ワークとして成年後見活動や自殺対策ゲートキーパーもしています。得意なのはウインタースポーツで、スキーとアイスホッケーは学生時代にバイトとしてもしていました。

名前が珍しいと言われますが「手」でなく「毛」です。毛といえば「多い・少ない」と数の話によくありますが、人の髪の毛は約6〜10万本生えているそうです。続いて「出会いの数だけ人は…」と出会いも数の話になることがありますが、何らかの接点を持つ人との出会いは約3万人だそうです。髪は毛よりも少ないんですね。

福祉の仕事は他の仕事に比べ、人と出会う機会が多い仕事かと思えます。はらからの家福祉会で働いたわら、数少ない出会いを同胞という形で皆さんとお会いできれば、と思います。こんな人間ですが、どうぞよろしくお願いたします。

4月よりさつき共同作業所で世話になっております山口愛です。

前職は主に広告デザインの制作業務をしておりました。

福祉の道を選んだきっかけは、私自身が片親で育ったこともあってこれまで多くの人々に支えられてきたこと、また近年、親しくなった方が心の病を持っていたり、心の病を持つご家族と住んでいた友人が緊急時にうちに避難してきたこと等が重なり、自分も病気や支援のことについて勉強してみたいと思うようになりました。

そんな中、ボランティア活動先で精神保健福祉士の方にお話を伺う機会があり自分自身も支援者になりました。という想いが強くなりました。

まだまだ分からないことばかりで、迷惑をかけてしまうことも多々ありますが、はらからの家福祉会とのご縁をいただいたことに感謝の気持ち忘れずに、精一杯がんばりたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

さつき共同作業所非常勤職員の話 須田忠男です。

私は74歳、信条は「何事にも一生懸命、真面目に、努力する」ことです。でもなかなか出来ない事を痛感しています。私の愛読書の一つに、遠藤周作の「おバカさん」という小説があります。フランス人のガストンが、突然、日本にやってきて片言の日本語でいろいろな人たちに係わっていく、そんなガストンをバカみたいと思いつつもながらも気にしなくてはいられない私がいるという設定の物語だったと思います。そのガストンは「バカ」な人と思われてしまいますが、ガストンは決して「バカ」ではなく「おバカさん」であり、「バカ」と「おバカさん」の違いがなんとなく読者に伝わってきます。この小説を読み、ガストンのような生き方ができれば素晴らしいと思いましたが、私自身が馬鹿正直な人間であり、続けたらいいと思いつつ、私の信条のもとになっております。



# はらからの家福社会賛助会コーナー

<平成28年度11月から3月の間に賛助会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

池谷 敏子 石川 義博 石倉 菊子 伊藤 善尚 伊藤 陽子 岡本 公子 川島 章子  
 北村 道子 近藤 節朗 佐藤 久夫 杉山 健治 高見 法孝 竹内 幸子 丹野 章子  
 塚田 弥生 春口 明朗 藤田 英親 山岸 琴美 山田 正則 横山 隆作  
 伊藤 順一郎 倉田 良志子 目加田 敏浩 渡辺 千代子  
 小平神明宮社務所 株式会社円グループ 地域福祉研究会 ゆきわりそう  
 長谷川病院 医療社会事業部 吉祥寺病院 医療相談室 多摩棕櫚亭協会  
 匿名 1名

敬称略

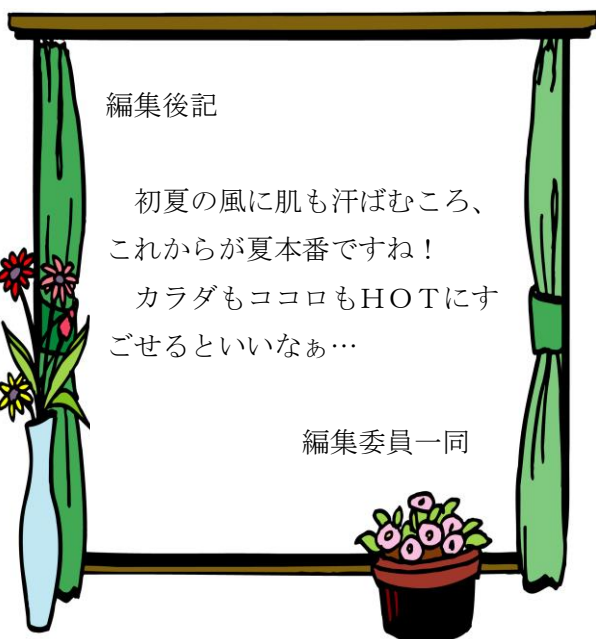
会員の皆様、本当にありがとうございました。今後ともなにとぞ宜しくお願い致します。

## 28年度はらからの家福社会賛助会決算報告 単位：円

支 出		収 入	
一般物品費	14,148	賛助会費収入	450,000
雑 費	23,657	(76名)	
役 務 費	10,000	受取利息	0
郵便手数料	8,550	その他の雑収入	0
法人寄附	410,000		
当期繰越金	35,168	前期繰越金	51,523
合 計	501,523	合 計	501,523



※郵便振替用紙を同封させていただきましたので、平成29年度賛助会費、何口でも結構です。お振込みいただけると幸いです。会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいておりますので、匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。



### 編集後記

初夏の風に肌も汗ばむころ、  
 これからが夏本番ですね！  
 カラダもココロもHOTにす  
 ごせるといいなあ…

編集委員一同

はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】社会福祉法人はらからの家福社会

〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

T E L 042-323-5637

【発行人】障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定 価】¥120